



気をつけて学校に行ってね 交通安全を祈りマスコットプレゼント

ふれあいネットワーク

いちのせき
社協だより

第11号

(2009年6月30日発行)

デイサービスセンター大東の利用者のみなさんが手作りした交通安全マスコットを大東町内小学校の新入学児童96名全員にプレゼント。6月23日には興田小学校を訪問し1年生20名に贈りました(写真)。

普段は児童らが施設を訪れ交流していますが、この交通安全マスコットを贈呈する時には利用者のみなさんが学校を訪問しています。毎年の恒例行事となり、今年はどんなマスコットが届くのかと学校でも楽しみにしているとのこと。マスコットには力エルの絵が描いてあり、『無事帰る(力エル)』という願いを込めて作られたそうです。梅雨時の通学路には雨を喜ぶ力エルと無事自宅に帰ることを願ったカラフルなマスコットがランドセルに揺られて子供たちを見守っていることでしょう。



この広報は共同募金の一部をあてて発行しております。

平成20年度 一関市社会福祉協議会

事業 報 告

合併三年度目の二十年度は、一体感の醸成に努めつつ、基本理念（ビジョン）『えあい・幸せを感じる地域の暮らし』、に基づいて、生活に役立つ福祉サービスの提供、住民が安心して暮らすことができる地域社会の構築に努めた。

又、事業推進に当たり、基本理念、基本方針に基づき次の項目を実践目標として展開した。

(1) 地域福祉の推進
市民の社会参加の促進とボランティア意識の醸成をはかりながら、住民相互で支え合う互助・共助の精神を高め、地域福祉推進協議会等の組織と連携し、地域を支える仕組みの構築に努めるとともに、社協の事務事業の円滑な推進を図るため、福祉委員である行政区長、民生児童委員等の協力を得て、社協会費及び募金、福祉事業の調査、連絡調整などにより社協業務の推進と地域福祉の増進を図った。

(2) 子育て支援
ファミリーサポートセンター事業等の利用促進を図りながら子育て支援ネットワークの活用など、適切な支援の提供に努めた。

(3) 相談、支援体制
心配ごと相談所などで適切な相談業務を行い、関係機関と連絡を密にしながら問題解決にあたった。

また、判断能力が不十分な方への福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理などをを行う、日常生活自立支援事業や、障がい者や家族に対し、地域における生活を支援するための障害者支援プラザの活用を促進する等、相談支援機能の充実に努めた。

(4) 介護保険事業及び障がい者の自立支援
サービスの質の向上と収支のバランスを

(1) 第三回一関市社会福祉大会
平成二十年九月二十五日(木)午後一時三十分から大東コミュニティセンターにおいて、四〇〇人が参加して行われた。

(2) 安全・安心の地域づくり支援事業
(県共募助成事業)

○「地域で暮らす—安心なくらしを探る」
平成二十年十一月十五日(土)一関文化センターにおいて二〇〇人が参加して行われた。

○抄録の作成
・「地域福祉を考える」
十日に市内全民生児童委員に依頼して行つた地域福祉活動計画アンケート結果の作成

○○「地域での暮らしを考える講演会」
平成二十一年二月十四日(土)一関市総合福祉センターにおいて六〇人が参加して行われた。

○○地域福祉活動計画中間報告の作成

○○「地域で暮らす—安心なくらしを探る」
平成二十一年十一月十五日(土)一関文化センターにおいて二〇〇人が参加して行われた。

○○「地域福祉を考える」
十日に市内全民生児童委員に依頼して行つた地域福祉活動計画アンケート結果の作成

(3) 車いす貸出し事業
高齢者や障がい者の生活を援助するため、外出時等に車いすを貸し出した。(貸出期間三ヶ月)

・保有台数 二二二台
・利用人員 二〇八人
・貸出延台数 二八〇台

堅持し、更には社協のもつ公益性等の特性も踏まえながら経営基盤強化に努めた。就労継続支援事業施設千厩ワーカープラザの作業活動の充実を図り、適切な支援を提供するよう努めた。

(4) 緊急連絡カード設置事業
緊急時に連絡が必要と認められるひとり暮らし高齢者等に作成配布し、民生委員の協力により、安全・安心をはかるため、住み慣れた家庭や地域で、緊急時の見守り活動を行つた。

・配布枚数 二、七八七枚

(5) 社協だより
・全戸配布 年三回発行

(6) 心配ごと相談所
・日常生活の心配ごと、悩みごと等を気軽に相談できるよう相談員を委嘱し相談、援助に努めた。

また、岩手・宮城内陸地震により被災した住民の生活不安解消に努めるため、七月から八月まで避難所に移動相談所を開設した。
・開設日数 四十九日
・巡回日数 十一日
・移動相談日数 六日
・相談延人数 九九人
・相談延件数 三八一件

(7) ボランティア保険の加入
ボランティア活動をする際に安心して活動が行えるよう、「ボランティア活動保険」の手続を行なつた。
・ボランティア保険 一、八五四人
・行事用保険 二四人
・送迎サービス補償 七七人
・有償活動保険 一人

(8) ボランティア協力校の指定
一関市内の小・中・高等学校的児童・生徒を対象として、ボランティアへの理解と関心を高め、ボランティア活動、社会連帯の精神を養うとともに、児童・生徒を通じて家庭および地域社会への啓発を図ることを目的に、ボランティア協力校十七校を指定した。

(9) 「ゆいつこ広場」 in かわさきの開催

市民と福祉関係者等とのふれあいの場を設け、互いの理解を深め、誰もが安心に暮らせるまちづくりに努めるため、ボランティア活動の啓発をすすめながら、福祉まつりを開催した。

- ・開催日 平成二十年十月二十六日(日)
- ・テーマ 「川と共生するまちづくり」
- ・内 容 ゆはず体験乗船、わいわい子ども広場、絵手紙作成体験、施設及び地域からの出店 等
- ・会 場 川崎防災センター
- ・来場者数 三七〇人(関係者含)

(10) ボランティア講座の開催

- ① ボランティアスクール(中高生)の開催 夏休み期間を利用して、中学生及び高校生が様々なふれあい体験を通して、ボランティア活動の理解とボランティア精神を醸成することをねらいに実施した。
- ・開催回数 五回
- ・参加者 中学生六人、高校生三六人
- ② 高校生保育ボランティア体験の開催 子育て支援活動への参加を通して、ボランティア活動への関心を高めるとともに、いのちや家庭の大切さについて理解を深めることを目的として開催した。
- ・開催回数 二回
- ・参加者数 一人

(11) ボランティア団体との連携

- ボランティア研修会並びに交流会 近隣のボランティア連絡協議会との交流会が開催され、大東・東山・室根・千厩地域からボランティア等約五十名が参加し、活発な意見交換や親睦交流を図った。
- ・開催月日 平成二十二年二月十五日(日)
- ・開催場所 グリーンパレス大東(大東町摺沢)
- ・延用時間 午前十時～午後一時
- ・延用人数 一〇四五人

(12) 地域型プラットホームサービス協働システムモデル事業(県社協補助事業)

行政又は社協が行っている既存のサービス以外の新たな活動団体の掘り起こしと、その団体等を住民にPRしていきながら、課題解決に向けた体制作りを行った。

- ・七月・八月 各支部地域活動団体調査、掘起し依頼／参画団体を指定
- ・九月 「モデル事業連絡会議」 一一名出席 総合福祉センター
- ・二十年十月 チラシを作成(参画団体、各支部)
- ・二十年十二月 社協だより第九号に団体紹介掲載(全戸、各支部)

- ・二十一年三月 社協だより第十号に団体紹介掲載(全戸、各支部)

(13) 在宅介護者リフレッシュ事業(補助事業)

- 在宅で寝たきり高齢者や重度障がい者の介護をされている方々の交流と、日頃の介護疲れを癒し、心身ともにリフレッシュを図るために集いを開催した。
- ・一泊 新湯本温泉 美翠館 二七人
- ・日帰り 矢びつ温泉 瑞泉閣 六七人

(14) 敬老会(受託事業)

- 多年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝う敬老会を敬老の日の前後に地区ごとに当祝者八十歳以上一一、八一五人を招待し開催した。

(15) 外出支援サービス事業(受託事業)

- 在宅の寝たきり高齢者等の移動困難者を対象に医療機関や福祉施設への通院通所、入退所の外出支援を行った。
- ・稼働時間 二、五、八時間二三分
- ・延用時間 一、〇四五人

(16) 日常生活自立支援事業(受託事業)

福祉サービスを自ら選択したり、福祉サービス提供事業者と契約することの判断能力が不十分な方に対し、利用手続きの援助や代行、公共料金の支払いなど、本人の日常生活の自立を支援した。

本協議会は西磐井及び東磐井の広域を担う「基幹社協」と位置付けられている。

このため、専門員一人が配置され、生活支援員として一閏支部四人、六支部・平泉町・藤沢町に各二人、合計二〇人を委嘱し、利用者の支援に努めた。

新規契約に関する相談件数 六三二件

利用援助契約者数 五三件

手話通訳者等派遣件数 七七人

(17) 障害者生活支援事業(受託事業)

一閏障害者支援プラザにおいて、福祉サービスの利用援助、社会資源の活用や生き力を高めるための支援、ピアカウンセリング、介護相談及び情報の提供等を行った。

相談件数 一、四二八件

(18) 手話講習会の開催(受託事業)

・開催日 平成二十一年一月二十四・三十

一日、二月十四・二十一・二十二日

・場 所 一閏市総合福祉センター

・参加者 十六歳以上で手話に関心のある一閏市在住の方 三〇人

・内 容 聽覚障害者理解等の講座と手話技術講座

(19) 子育て支援事業(受託事業)

- 一閏市ファミリーサポートセンターにおいて、育児の援助を行う方(協力会員)と、育児の援助を受ける方(依頼会員)、双方を兼ねる方(両会員)を組織化し、育児に関する相互援助活動の支援を行った。また、子育て支援の相談・情報提供、保育ボランティアの派遣、子育て支援の講師とし

(20) 手話通訳者等派遣事業(受託事業)

て職員を派遣した。

- ・会員数 三三九人
- ・活動件数 六九九件
- ・子育て支援件数 一、一二六件

(21) 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯や障がいのある方、介護をする高齢者等が同居する世帯に対して、経済的自立と生活意欲の助長、社会参加の促進を図るため、低い金利(一部無利子)で貸し付けを行った。

貸付けは、社協の貸付調査委員会が審査し、岩手県社協から貸付を行った。

・貸付状況 一三件 九、二二〇五、一〇〇円

(22) たすけあい金庫貸付事業

失業や疾病等による一時的収入減等によ

り、生活維持が困難になった世帯に対し、一時資金として五〇、〇〇〇円を限度に無

利子で貸し付けを行った。

・貸付状況 三十九件 一、七三七、〇〇〇円

(23) 災害見舞金

- 罹災世帯、死傷者に対し見舞金を贈った。

(24) 福祉団体等助成事業

- ボランティア団体等、福祉団体の活動を円滑に推進するため、各団体の活動に助成した。

(25) 共同募金事業への協力

① 赤い羽根共同募金結果

赤い羽根共同募金運動は、十月一日から支部ごとに運動に協力した結果、近年の経済的不況影響が続き厳しい社会情勢を反映し、目標額を下回る結果となつた。

実績額 一八七、八九二、一一五円

② 歳末たすけあい募金結果

「みんなでささえあうあつたかい地域づくり」をスローガンに、募金運動を展開し、生活困窮世帯、ひとり暮らし高齢者、母子・父子世帯、寝たきり高齢者、認知症高齢者、障がい児（者）を中心とし、一関市社会福祉協議会が民生児童委員の協力により配分したほか、施設にも配分した。

- ・ 実績額 二三、七八八、一九九円
- ・ 配分実績 四一七〇件

※ 平成二十年度実績額と配分額の差額

一、〇九五、八〇二円は、いとたん岩手県共同募金会に送付し、次年度の一関市社会福祉協議会の地域福祉事業、在宅福祉サービス等の事業費として配分を受けることになります。

(26) 食の自立支援事業（受託事業）

概ね六十五歳以上のひとり暮らし高齢者、高齢夫婦、障がい者等を対象に、食事を自宅に届け、食の自立を支援し、併せて安否確認を行つた。

支部	19年度		20年度	
	登録者数	配食総数	登録者数	配食総数
大東	二〇	二八〇	二三	二九〇
室根	一〇	一三〇	一〇	一三〇
合計	三、五九三	三、一四〇	三、五九三	三、一四〇

- ④ デイサービスセンター（介護保険事業）
日帰り施設介護サービス。自宅からの送迎・入浴・昼食・余暇活動等のサービスを行い、一日を楽しく過ごせる通所支援を行つた。

(27) 在宅福祉事業

① ヘルパーセンター（介護保険事業）

要介護及び要支援と認定された高齢者等に対し、訪問介護員が家庭を訪問して、日常生活の家事援助や身体介護を行つた。

常生活の家事援助や身体介護を行つた。（単位：人）

延利用人数

年度	花泉				合計
	大東	東山	室根	合計	
19年度	一、五〇	七〇四	三九	三〇六	二、八九〇
20年度	一、七三	七〇九	三九	三〇六	二、八九〇
軽減者	七	一九	四	〇	三三

② 介護支援事業所（障害者自立支援事業）

障がいの方に対し、訪問介護員が家庭を訪問し、日常生活の家事援助や身体介護を行つた。

延利用人数

（単位：人）

年度	花泉				合計
	大東	東山	室根	合計	
20年度	四	七	七	一九	三二
19年度	二三	七	七	一九	三二
軽減者	七	一九	四	〇	三三

③ 訪問入浴センター（介護保険事業）

在宅で自力入浴が困難な方に、特殊浴槽を搭載した車で訪問し、入浴介護を行つた。

延利用人数

（単位：人）

年度	花泉				合計
	大東	東山	室根	合計	
20年度	四五	一	一	三九	三九
19年度	吾三	一九	一四	三九	三九
軽減者	七	一九	三	〇	三三

⑥ 在宅介護支援センター（受託事業）

介護予防・生活支援等の総合相談、高齢者の実態把握、介護保険対象外の方への支援を行つた。

延利用人数

（単位：人）

年度	花泉				合計
	大東	東山	室根	合計	
20年度	一、四九一	一、三〇五	一、三九	三九	三九
19年度	一、三〇六	一、三九	一、三九	三九	三九
軽減者	七	一九	三	〇	三三

⑨ 障害者地域生活支援事業（補助事業）

在宅障がい者の健康保持・生活支援を目的に、訪問入浴サービスを提供した。

延利用人数

（単位：人）

年度	大東支部				合計
	花泉	大東	東山	室根	
20年度	七	一	一	一	三三〇
19年度	八	一	一	一	三三〇

⑩ 生活介護事業（身体障がい者等に対する生活介護事業（デイサービス事業））

在宅障がい者に対し、昼間、入浴、排泄、食事の介助を行うとともに、創作的活動等の機会を提供した。

* 生活管理指導員派遣事業

訪問介護員が訪問し家事援助等のサービスを提供した。

延利用人数

（単位：人）

年度	東山支部				合計
	花泉	大東	東山	室根	
20年度	一	一	一	一	四
19年度	三	一	一	一	五

* 生きがいデイサービス事業

入浴、昼食、余暇活動を行いながら生活指導を行つた。

延利用人数

（単位：人）

年度	大東支部				合計
	花泉	大東	東山	室根	
20年度	一、三四	四〇	九三	三二四	一、七三九
19年度	一、三三	四〇	九三	三二四	一、七三九

20年度決算の状況

特別会計

(千廻ワークプラザ)

資金収支計算書

自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

勘定科目		決算額(円)
活動労働による収支	就労支援事業収入	2,453,973
	就労支援事業収入計(1)	2,453,973
	就労支援事業支出	2,453,973
	就労支援事業支出計(2)	2,453,973
	就労支援事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	0
福祉事業活動による収支	運営費収入	2,042,155
	自立支援費収入	17,341,025
	利用者負担金収入	674,495
	雑 収 入	0
	受取利息配当金収入	5,626
	福祉事業収入計(4)	20,063,301
	人件費支出	7,653,704
	事務費支出	2,185,063
	事業費支出	4,097,586
	福祉事業支出計(5)	13,936,353
福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)		6,126,948
に施設による整備等	施設整備等収入計(7)	0
	施設整備等支出計(8)	0
	施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)	0
財務活動による収支	財務収入計(10)	0
	その他の支出	147,075
	財務支出計(11)	147,075
	財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)	△ 147,075
予備費(13)		
当期資金収支差額合計(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)		5,979,873

前期末支払資金残高(15)	4,045,745
当期末支払資金残高(14)+(15)	10,025,618

貸借対照表

平成21年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	10,746,742	流動負債	721,124
現 金	30,000	未 払 金	702,322
預 貯 金	5,722,280	預り 金	18,802
未 収 金	4,994,462		
		負債の部合計	721,124
固定資産	887,840		
その他の固定資産	887,840	純資産の部	
車輌運搬具 器具及び備品	84,107	国庫補助金等 特別積立金 次期繰越活動 収支差額 (うち当期活動 (取 支 差 領))	641,667 10,271,791 (5,924,290)
		純資産の部合計	10,913,458
資産の部合計	11,634,582	負 債 及 び 純資産の部合計	11,634,582

脚注: 減価償却費の累計額 1,889,184円

一般会計

資金収支計算書

自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

勘定科目		決算額(円)
経常活動による収支	会費収入	32,477,300
	寄附金収入	13,643,315
	経常経費補助金収入	95,278,017
	受託金収入	91,819,502
	事業収入	11,340,031
	貸付事業等収入	4,227,000
	共同募金配分金収入	34,562,186
	介護保険収入	437,738,184
	自立支援費等収入	16,105,790
	雑収入	1,342,493
経常活動による支 出	借入金利息補助金収入	199,652
	受取利息配当金収入	2,618,724
	経理区分間繰入金収入	14,152,742
	経常収入計(1)	755,504,936
	人件費支出	468,742,846
	事務費支出	47,266,786
	事業費支出	141,297,310
	貸付事業等支出	2,337,000
	助成金支出	27,350,656
	借入金利息支出	199,652
経常活動による支 出	経理区分間繰入金支出	14,152,742
	経常支出計(2)	701,346,992
	経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	54,157,944
	施設整備等収入計(4)	0
	固定資産取得支出	6,693,974
	施設整備等支出計(5)	6,693,974
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 6,693,974
	借入金元金償還補助金収入	17,800,000
	積立金取崩収入	4,651,500
	その他の収入	2,825,455
財務活動による収支	財務収入計(7)	25,276,955
	借入金元金償還金支出	17,800,000
	積立預金積立支出	12,050,000
	その他の支出	6,378,700
	財務支出計(8)	36,228,700
	財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 10,951,745
	予備費(10)	
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	36,512,225
	前期末支払資金残高(12)	207,764,380
	当期末支払資金残高(11)+(12)	244,276,605

貸借対照表

平成21年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	263,783,849	流動負債	19,507,244
現 金	550,000	未 払 金	19,167,440
預 貯 金	166,622,175	預り 金	339,804
未 収 金	96,175,544		
前 払 金	436,130		
		固定負債	92,938,895
		設備資金借入金	0
		退職給与引当金	92,938,895
固定資産	971,643,801	負債の部合計	112,446,139
基本財産	234,094,623	純資産の部	
基本財産特定預金	7,000,000	基 本 金	7,000,000
建 物	210,777,140	基 金	300,000,000
建物付属設備	16,317,483	国庫補助金等特別積立金	158,570,083
		その他の積立金	279,160,878
その他の固定資産	737,549,178	財政調整積立金	107,845,574
建 物	2,193,863	介護保険財政積立金	171,315,304
構 築 物	1,565,579	次期繰越活動収支差額	378,250,550
車輌運搬具	19,640,208	(うち当期活動 (取 支 差 領))	(45,154,718)
器具及び備品	20,567,596		
ソフツウェア	6,697,659	純資産の部合計	1,122,981,511
貸付事業等貸付金	14,784,500	負債及び純資産の部合計	1,235,427,650
退職共済預け金	54,713,525		
福祉基金積立預金	300,000,000		
財政調整積立預金	107,845,574		
介護保険財政積立金	171,315,304		
退職金積立預金	38,225,370		
資産の部合計	1,235,427,650		

脚注: 減価償却費の累計額 457,629,326円

地域での暮らしを考える

五回連続講座 『共同企画』



社協だより第十号でお知らせして
おりましたが、五月十六日に第一回
講座を開催しました。

及川和男氏には、「地域活動と生
きがい－文学的アプローチ」と題し、
講演をしていただきました。概要は
次のとおりです。

私の文学に対する態度というものは
は「いのちを見つめ、心を起こす」
というものであります。これはあ
とから紹介する三つの具体的な地域
活動、すぐれた地域おこしにも共通
しています。

価値創造にかかわって、ご紹介し
たい人がおります。心理学者のヴィ
クトール・E・フランクルで、『夜
と霧』の著者として有名な方です。
この方がアウシュヴィッツに収容さ
れたとき、生き残った人はどうと、
愛や思いやり、創造力が豊かである
人ということを発見するのです。
彼は、人生において発見されるべ
き価値として三つ挙げておられます。
一、創造価値、体験価値、態度価値がそ
れで、これは地域活動そのものに潜む

地域活動と生きがい、というテー
マに接したとき、とつさに、それは
新しい価値の創造である、と見定め
ました。生きがいということ自体も、
自分の価値に目覚める、価値を味わ
うということになるわけでして、私
の本日のお話は、価値創造にかかわ
る総論的な話にならうかと思います。

柳田国男は「農村の盛衰とは住民
の幸福の総量の増減である」と言つ
ております。幸福の総量の中には、
もちろん経済が土台としてあるで
しょうが、自然や文化、精神の豊か
さも含まれてくるはずですし、誇り
も入ってくるにちがいありません。
地域活動のあり方として精神的な価
値の創造、ということを念頭に置いて
いただければ、と思う次第です。

次いで、「下内野四WD計画に基
づく地域づくり」と題して、勝部欣
一氏に実践事例を発表していただき
ました。

下内野地区は、平成二十年度に「元
気なコミュニティ百選」に選ばれて
おります。

四WD計画では地域課題を次のよ
うに整理しています。

一、定住人口を倍増しよう
二、住環境を良くしよう
三、交流の拡大をしよう

価値創造に関わってくると思います。
次に、私が学んだ三つの事例を紹
介します。

沢内村の深沢村長、バッタリー村
の木藤古徳一郎さん、重茂半島姉吉
地区の木村安五郎さんの活動で、共
通しているのは「自信と誇り」とい
うことです。誇りを持ったとき、自
信が湧いてくるのであって、その逆
ではないということです。

柳田国男は「農村の盛衰とは住民
の幸福の総量の増減である」と言つ
ております。幸福の総量の中には、
もちろん経済が土台としてあるで
しょうが、自然や文化、精神の豊か
さも含まれてくるはずですし、誇り
も入ってくるにちがいありません。
地域活動のあり方として精神的な価
値の創造、ということを念頭に置いて
いただければ、と思う次第です。

三については「田舎教授派遣事業」
です。石磨き大会と併せ、日本大学
と交流しています。そのほか中国の
都市と国際交流も行っています。

四については、機械の共同利用化
と農作業の受委託です。集落営農構
想を前提にした「下内野集落営農計
画」も策定しています。

又、十年以上前から有機農産物生
産組合を組織し、有機農法に取り組
んでいます。

1. 講演及び実践事例発表の抄録を
ご希望の方には、無料で配布をして
おります。
2. 地域の暮らしを考える第一回講
座は一関テレビで六月中放映され、
好評でした。尚、視聴者のリクエス
トに七月一杯応じることです。

※ 第二回講座は七月十八日で、講師
はそばた脳神経クリニック院長、実践
事例発表は未来塾の事務局員です。

四、産業の振興をしよう
以下、順に具体的な項目を紹介し
ます。

一については遊休地の宅地分譲で
す。四世帯が移住してきました。
二については「石磨き大会」です。
「かじかの里づくり」と銘打つて実
施があります。

三については「田舎教授派遣事業」
です。石磨き大会と併せ、日本大学
と交流しています。そのほか中国の
都市と国際交流も行っています。

四については、機械の共同利用化
と農作業の受委託です。集落営農構
想を前提にした「下内野集落営農計
画」も策定しています。

又、十年以上前から有機農産物生
産組合を組織し、有機農法に取り組
んでいます。

三については「田舎教授派遣事業」
です。石磨き大会と併せ、日本大学
と交流しています。そのほか中国の
都市と国際交流も行っています。

四については、機械の共同利用化
と農作業の受委託です。集落営農構
想を前提にした「下内野集落営農計
画」も策定しています。

又、十年以上前から有機農産物生
産組合を組織し、有機農法に取り組
んでいます。

地域活動団体紹介

ええ町「づくり隊」

「ええ町つくり隊」の活動が「月刊福祉」に掲載されました。

ええ町つくり隊が発足したのは平成十五年四月。自閉症の人が暮らしやすい町づくりが結成のきっかけで、まずは、地域における自閉症の理解を深めることから活動が始まつた。「親の会」と協議し、自閉症への理解を促すポスターを作成し、賛同するお店にポスターの掲示を依頼したところ、四十を超える店舗から協力いただしたこととなる。

大町商店街を中心に、自閉症の子供たちが行きやすい店を一つでも多く増やしていくとの考えからだ。商店の方でも最初はとまどいがあつたようだ。同伴するボランティアを通しての会話から、次第に直接のやりとりへと変わり、関係性を深めていったという。

見守りボランティアは主として高校生。自閉症の特性や商品選びにサポートが必要なことを事前に店の人たちに伝え、地域の力を引き出すように努めているという。

※お問合せ先 NPO法人レスパ
イトハウス・ハンズ

(三一五七二〇)

新駒会（千厩町新町地区）

新町地区で資源回収に取り組んでいる同志は、千厩町図書館にライブラリーバックを寄贈しました。

新駒会は週に一度、図書館の駐車場を借用して、古新聞、古雑誌、一举бин、ビールビン、空き缶、ペットボトルなどを分別回収しており、その益金の一部を充当し、今回の寄贈となつたもので、昨年に引きつづくもの。

資源回収はゴミの減量化、地球温暖化防止、地域の環境美化につながるなど良いことずくめだが、労力奉仕に頼る部分が大きいことから、目的意識やリーダーの存在、地域の結束力がキメ手となつてくる。それゆえに、この継続的取り組みは高く評価されていい。

地域活動の展開は、その事業に取り組む人たちを生き活きとさせるばかりでなく、地域そのものを活性化させる。

ライブラリーバックの寄贈は、図書館利用者の読書活動へも好影響を及ぼすことだろう。それぞれの地域で、身近な第一歩を踏み出すことが期待されている。

かわら版

「福寿草」が放映

介護予防「さわやか大学」の取り組みが、NHKの番組「おはんですいわて」で放映されました。

さわやか大学は花泉支部の独自の取り組みで、放映のきっかけとなつたのは花泉町老松の老松介護予防センターで展開された「五十年後の自分へ」というテーマで寄せられた原稿を文集『福寿草』として発刊したこと。

さわやか大学は、高齢者が要介護とならないよう、運動機能の向上や認知症予防の観点から教養講座や日常動作訓練を行い、高齢者の自立を支援しようとして開催されているものです。

今回の放映は文集の発刊と、テーマのユニークさが評価されたものです。

「樂生」

たちの想像力と創造力は、いのちの糧となつて長寿を約束してくれるものかもしれません。

「心のつながりを大切にするまちづくり」をテーマに、花泉支部独自の取り組みである福祉作文コンクールや子育てサロン、そして介護予防活動などを紹介します。

本事業の実施にあたり、地域住民はもとより、NPOやボランティア団体、社会福祉法人の協力をいたただき、今後の地域福祉活動の参考となるよう工夫をこらしてまいります。



第四回一関市社会福祉大会

七月二十九日一関文化センター中ホールにおいて社会福祉大会が開催されます。

社会福祉関係者・団体が一堂に会し、市民一人ひとりが福祉の担い手であり、又、受け手であることを確認しながら、今後の方向性を探つていこうとするものです。

当日は地域福祉に功績のあつた方々が表彰されるほか、「高齢化時代を生き切る」と題し医療法人三秋会理事長の長澤茂氏から記念講演を頂く予定です。

まごころ寄附

平成21年3月～平成21年5月

ここから
お礼申しあげます。

一関支部

一関市萩莊字小萩	高橋 通夫様	3,000円
一関市三関字神田	松倉 忠様	5,800円
一関市関が丘	菅原 瞳子様	20,000円
一関市	宮前第一納税貯蓄組合様	10,583円
一関市 紫津喜の会 会主 柏木 貞子様		100,000円

花泉支部

花泉町	花泉ダンス同好会様	10,000円
花泉町	花泉幼稚園様	3,062円
花泉町花泉字下館	山戸 實様	100,000円
花泉町金沢字内ノ目	稻辺 園子様	10,000円

大東支部

大東町猿沢字野田前	千田 泰様	30,000円
大東町猿沢字山崎	小泉 重夫様	50,000円
大東町大原字鶴ヶ前	芳賀 功様	100,000円
大東町摺沢字堀河ノ沢	菅原 梅雄様	50,000円
大東町摺沢字石倉	和賀 成夫様	50,000円
大東町渋民字八幡前	芦 正太郎様	30,000円
大東町中川字小向	小山 ミワ様	100,000円
大東町曾慶字蟹小沢	小山 一志様	30,000円
京都市伏見区舞台町 (大東町渋民字小林)	菊池 和宏様	30,000円
大東町大原字下七切	菊池 昭義様	30,000円

千厩支部

千厩町千厩字石堂	(有)家具の小野寺様	5,100円
千厩町奥玉字刈屋野	金野 節子様	100,000円

東山支部

東山町	長坂小学校 6年生いび大獅子太鼓様	11,110円
東山町田河津字野土	小野寺篤次様	100,000円
東山町田河津字横沢	高橋 堅治様	50,000円
東山町長坂字町	鈴木 隆様	100,000円
東山町	長坂小学校第31回卒業式同級会会長 岩渕 丙虎様	11,000円
東山町田河津字石ノ森	渡邊 孝夫様	50,000円
東山町長坂字羽根堀	鈴木 三夫様	100,000円
東山町長坂字里前	那須 マス様	雑巾 70枚

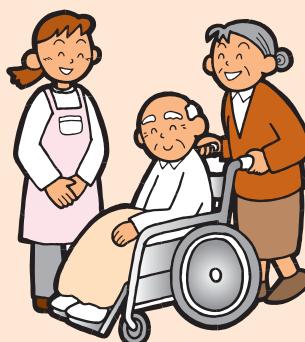
室根支部

室根町津谷川字中磯	佐藤 陽一様	30,000円
室根町矢越字深持	佐藤 誠様	30,000円
室根町折壁字入沢	加藤 良大様	50,000円
室根町津谷川字上千代ケ原	畠山 芳美様	20,000円
室根町津谷川字上千代ケ原	佐藤 董典様	30,000円
室根町折壁字留	菅原しみ子様	50,000円
室根町 室根信和会会長 鈴木 市郎様		10,000円

川崎支部

川崎町	川崎芸術文化協会様	37,762円
川崎町薄衣字峯	橋本 幸志様	100,000円
川崎町薄衣字千石	廣長 秀一様	100,000円
川崎町薄衣字砂子田	三浦 啓一様	100,000円
川崎町薄衣字山下	菅原 春治様	100,000円

社会福祉協議会では、在宅福祉サービスを提供する事業者として、苦情の解決とサービスの質の向上を目的に、第三者委員をお願いしておりますので、ご紹介いたします。



◎第三者委員

岩 渕 信 俊
辰 己 結 祥
一関市花景町字地平
電話 821-3143-4735
一関市大東町曾慶字神蔭38-1
電話 751-4411-11

秘密は厳守します。お気軽にご相談ください。
社会福祉法人一関市社会福祉協議会(在宅福祉課) 電話 23-6020

ホームページに関する
お問い合わせ先

社会福祉法人 一関市社会福祉協議会ホームページ

<http://www.ichinoseki-shakyo.com/> E-mail: info@ichinoseki-shakyo.com